

今回のBMNewsも盛り沢山な内容である。第105回技術例会では「永久磁石の材料開発とその応用及びリサイクルの最新動向」として7件ご講演頂いた。当日の講演内容を講師の皆様にご承諾いただき再掲載した。いずれも魅力的な内容であり参考にして頂きたい。

寺子屋BM塾では小野寺講師に「動的(交流)磁化測定の実験」、原野講師に「インピーダンス(LCR)測定の基礎」、今岡講師に「パワーエレクトロニクスにおける磁気部品の基礎と応用」と題してご講義頂いた。大変貴重な講義であり、今回も徳永理事(寺子屋BM塾長)に各講義について詳しくまとめて頂いたので参考にして欲しい。

内外BM技術動向は7月に開催されたREPM2025に諏訪部副会長に参加して頂き、詳しい報告をお願いした。Nd-Fe-B磁石、観察・評価法、永久磁石応用、資源・サプライチェーン・リサイクル関連、RE窒化物、Sm-Fe-N系磁石、Sm-Co磁石、1-12系磁石、希土類フリー磁石、ハイスループット実験法、AI機械学習など多岐にわたった内容であり是非参考にして頂きたい。

寺子屋BM塾と軟磁性材料研究会はZOOMのみで開催した。寺子屋BM塾参加者数は40-50名、軟磁性材料研究会参加者数は34名であった。一方、第105回技術例会は現地とZOOMのハイブリッドで開催した。参加者は95名(現地65名、ZOOM30名)であり、交流会には55名(現地参加者の85%)参加して頂いた。第103回技術例会を参考にすると一部ZOOMに動いた傾向はあるが、参加者総数は明らかに増大した。また、現地参加者は交流会での情報交換の場を大切にしていることが窺える。ZOOM開催が可能になった今、現地およびZOOMそれぞれのメリットを受け入れることが必要と感ぜられる。

さて、今年度も総会で認めて頂き、事務局は2人体制で進めている。各種行事推進は殆ど木村事務局長にお任せしており、引継ぎは順調に進んでいる。

機関紙編集委員長  
大森賢次